

平成 24 年 2 月 21 日



株式会社インテック  
国立大学法人富山大学

## セントラム(富山市路面電車)においてスマート ICT を活用した バリュー創生に関する実証実験を開始

IT ホールディングスグループの株式会社インテック(本社: 富山県富山市、代表取締役社長 金岡克己、以下インテック)と国立大学法人富山大学(学長 遠藤俊郎)の大学院理工学研究部メディア情報通信研究室(富山県富山市、教授 堀田裕弘)は、総務省による平成 23 年度戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)\*1 で採択された研究課題「富山 LRT\*2 におけるスマート ICT\*3 を活用したバリュー創生の研究開発」の実証実験を、富山市内の路面電車環状線を走る車両(愛称、セントラム)で、2 月 22 日(水)から開始します。

本研究課題では、ICT を用いて街中の賑わいを創出することを狙いとし、近い将来の M2M\*4 普及に備えて街中のさまざまな場所で ICT 機器を利用できるようにすることで生活者の利便性向上を検証することを目的としています。今年度(平成 24 年 3 月 31 日まで)は、富山市、富山地方鉄道株式会社、株式会社まちづくりとやまの 3 つの組織にご協力いただき、以下のような実証実験を行う予定です。

- ① セントラム車体内に独自に開発したデジタルサイネージシステムを設置し、沿線店舗の広告を運行位置に合わせてタイムリーに表示します。

セントラムが 1 周する軌道を 4 つの区間に分割し、今年度は協力 3 組織からの発信情報に限定して、区間に応じた広告を表示し、どのようなタイミングで表示することが広告として有効か検証します。

- ② セントラムに乗車したお客さまが、スマートフォンを使って街中に隠れているキャラクタを探すゲームを行います。

このゲームは、AR\*5 表示技術を用いています。セントラムという路面電車内での利用を想定し、高速に動いたり止まったりする車窓から風景を認識することや、登録されている場所に正確にキャラクタ等の情報を表示する技術を検証します。

- ③ スマートフォンに、セントラムの走行位置など運行状況に関する情報をリアルタイムに提供します。また、現在地から最寄りの電停までの経路を適切に案内する経路ナビゲーションシステムの実験も行い、電車に乗り遅れることなく、待ち時間を有効活用できるようにします。

提供される位置情報の精度や利用者の使い勝手の観点からシステムの有効性と操作画面の使いやすさなどを検証します。

上記①に関しては、2 月 22 日(水)より、運用を開始します。また②と③に関しては、今年度は、利用者を限定して実証実験を行います。

なお、下記要領で、本実証実験に関するデモンストレーションを実施する予定です。

- 日時： 3月18日(日) 10:00～14:00  
場所： グランドプラザ（セントラム『グランドプラザ前』下車0分）  
富山県富山市総曲輪三丁目8番39号  
<http://www.grandplaza.jp/>  
内容： 1. セントラムでのAR体験実験  
2. 本実証実験を紹介するパネル展示  
3. 一般来場者に対してセントラム利用等に関するアンケート調査

お問い合わせ先

■インテックのお問い合わせ窓口

インテック 先端技術研究所 研究開発部 076-444-8012

■富山大学大学院理工学研究部メディア情報通信研究室のお問い合わせ窓口

堀田裕弘教授 076-445-6758

用語集

\*1 **戦略的情報通信研究開発推進制度**

(Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme : SCOPE)

本制度は、情報通信技術(ICT)分野の研究開発における競争的資金制度です。総務省が定めた戦略的な重点研究開発目標を実現するために、ICTにおけるシーズの創出、研究者や研究機関における研究開発力の向上、世界をリードする知的財産の創出、国際標準を獲得することなどを目的として、新規性に富む課題の研究開発を委託する制度です。

\*2 **LRT (Light Rail Transit)**

日本語訳は、軽量軌道交通。富山市では、富山市路面電車(愛称：セントラム)に加え、富山ライトレール(愛称：ポートラム)も運行しています。

\*3 **ICT (Information and Communication Technology)**

情報(Information)と通信(Communication)に関する技術の総称。

ICT 機器とは、コンピュータやネットワークだけでなく、センサやネットワークに接続されるさまざまな機器を想定しています。

\*4 **M2M (Machine to Machine)**

センサとコンピュータ等、多数の機械と機械がネットワークを介して直接通信することで、より高度なサービスを提供するようになると考えられています。

\*5 **AR (Augmented Reality)**

日本語訳は、拡張現実感。カメラで取得された映像データに、コンピュータで生成されたバーチャルな情報を合成して表示する技術。

以上

ご参考

#### ◆株式会社インテックについて

インテックは 1964 年創立の独立系総合 IT 企業です。IT コンサルティング、システムインテグレーション、ソフトウェア開発、アウトソーシング、ネットワークを柱に、製造や流通、金融、行政、医療など様々な分野のお客さまに最適なトータルサービスを提供しています。

経営戦略に沿った情報化戦略の立案から、情報システム的设计・開発、ネットワークの構築や基盤システムの運用保守まで、お客さまの IT パートナーとして幅広く事業を展開しています。

インテック ホームページ <http://www.intec.co.jp/>

IT ホールディングスグループは、さまざまなお客さまを IT で支援する IT エキスパート集団です。進化し続ける企業グループとして、グループ各社の個性を活かし総合力で応えます。

#### ◆富山大学大学院 理工学研究部 メディア情報通信研究室

当研究室では、次世代裸眼 3D-IPTV の品質評価技術、マルチメディアサービス・アプリケーションの QoE 評価技術、NIRS・脳波など生体情報を利用した新しい映像品質評価技術、画像処理による新しい路面センサの開発、マルチ/全方位カメラを用いた画像処理、富山 LRT 用スマートフォン・ナビゲーションアプリの開発など、メディア情報通信に関する教育・研究を行っています。

研究室ホームページ <http://mict.eng.u-toyama.ac.jp/>

#### ◆富山市

富山市は「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を核に、人と地球環境に優しいまちづくりを進めています。

平成 20 年度には、全国で 13 の「環境モデル都市」の 1 都市に選定されています。さらに平成 23 年度には、全国で 11 の「環境未来都市」の 1 都市に選定されています。

富山市ホームページ <http://www.city.toyama.toyama.jp/>

#### ◆富山地方鉄道株式会社

昭和 5 年創立以来、富山の地域交通をとおして、地域の発展に貢献している企業です。

富山市から宇奈月温泉までの鉄道は、93.2km。映画 Railways の舞台となりました。また、路面電車(軌道線)は、7.3km で運営しています。

富山地方鉄道株式会社ホームページ <http://www.chitetsu.co.jp/>

#### ◆株式会社まちづくりとやま

富山市が平成 11 年に策定した「富山市中心市街地活性化基本計画」に基づいて、広域都心と生活都心の調和する賑わい溢れる中心市街地の再生を目指し、平成 12 年 7 月に第三セクターとして設立されました。

コミュニティバスの運営、富山市まちなか賑わい広場「グランドプラザ」の管理・運営、市内全域の地元農産物の情報発信と販売促進の「地場もん屋総本店」の運営などをおこなっています。

株式会社まちづくりとやまホームページ <http://www.tmo-toyama.com/>